

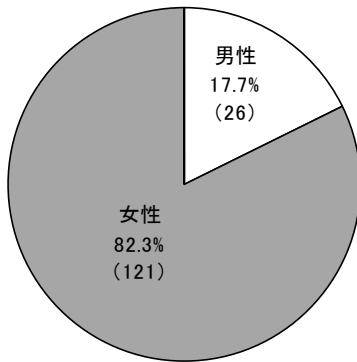
「渋谷区民生委員児童委員の活動の実態に関するアンケート調査」結果の概要

地域福祉活動を担う民生委員・児童委員の活動の実態を調査することにより、地域の実態や課題を把握し、渋谷区社会福祉協議会地域福祉活動計画策定の基礎資料とする目的で実施された。アンケート調査結果概要は次のとおりである。

○回答者の基本属性

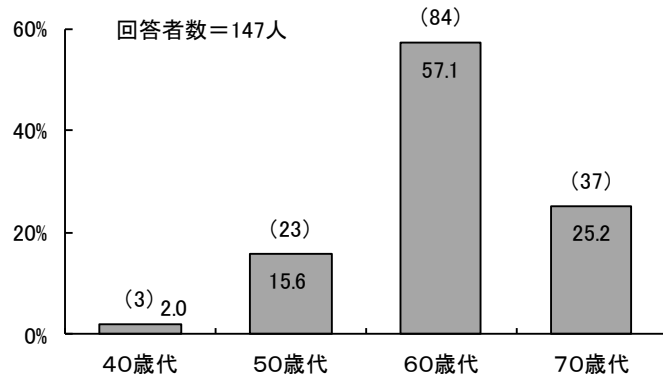
調査対象者	民生委員児童委員 184人
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査期間	平成24年8月6日～8月20日
回収状況	有効回収数147件、有効回収率79.9%

図表1 性別（単数回答）



回答者数=147人

図表2 年齢（単数回答）



※（ ）内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

図表3 性別と年齢（単数回答）

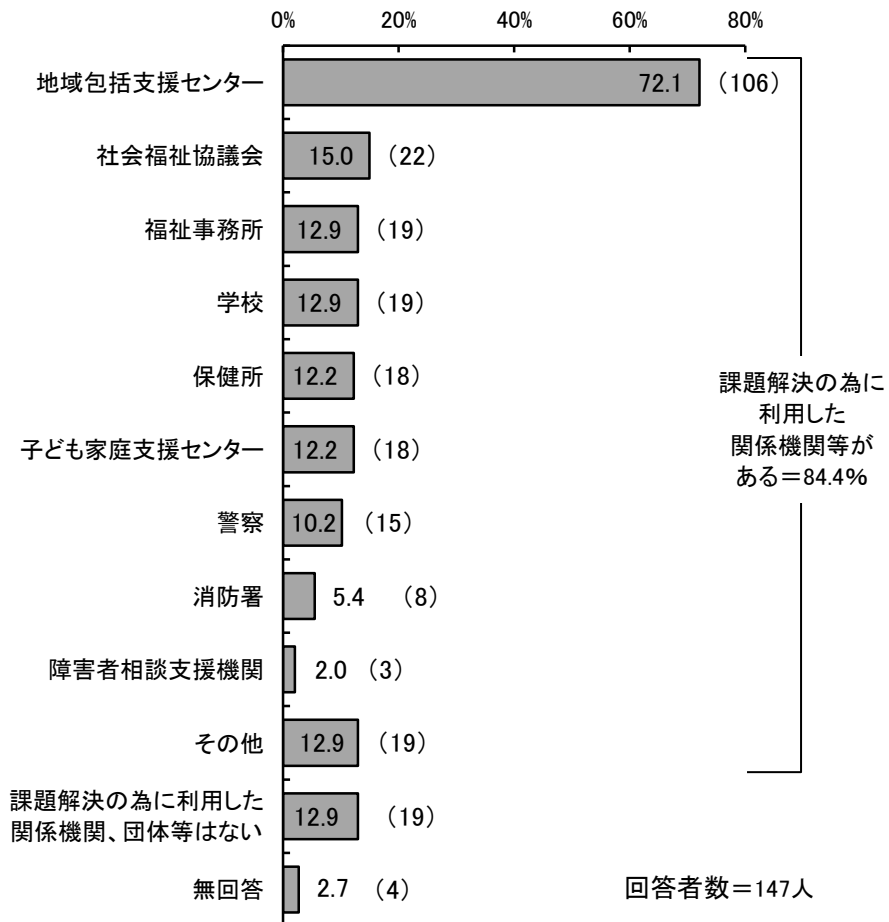
		回答者数 (人)	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
全体		147	2.0	15.6	57.1	25.2
性別	男性	26	0.0	15.4	53.8	30.8
	女性	121	2.5	15.7	57.9	24.0

※回答者数の単位は（人）、そのほかの単位は回答率（%）

回答者147人の性別については、「男性」26人（17.7%）、「女性」121人（82.3%）であった。回答者の年齢については、「60歳代」84人（57.1%）、「70歳代」37人（25.2%）、「50歳代」23人（15.6%）、「40歳代」3人（2.0%）であった。性別と年齢の関係については、男女とも60歳代が最も割合が高かった。

1 最近1年間で課題解決のために利用した関係機関・団体等について

図表4 利用した関係機関・団体等（複数回答）

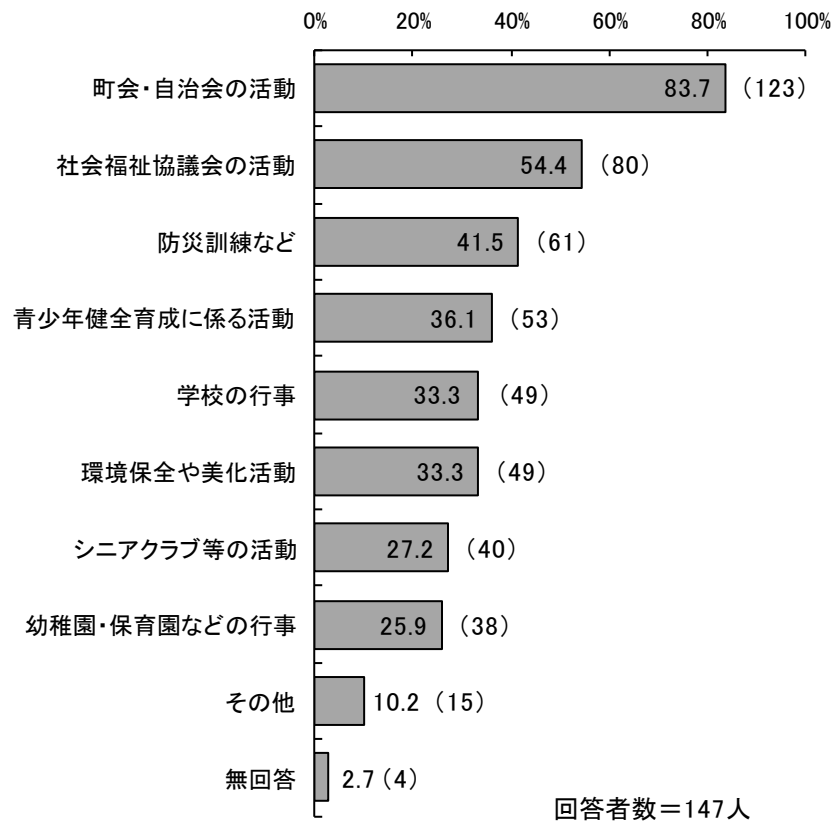


※ () 内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

最近1年間で課題解決のために利用した関係機関・団体等については、「地域包括支援センター」が72.1%であった。課題解決のために利用した機関等があると回答したのは、全体の84.4%であった。

2 地域福祉を活性化させる活動について

図表 5 地域福祉を活性化させる活動（複数回答）

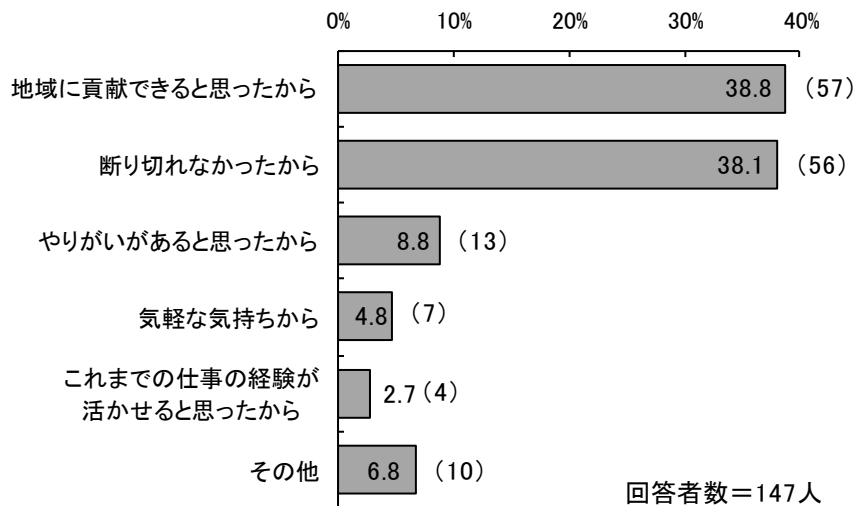


※（ ）内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

課題解決のために社協の事業・福祉サービスを利用した割合が少ないのに対し、地域福祉を活性化させる活動として、社協活動に対する期待は比較的大きい結果となっている。

3 民生委員・児童委員を引き受けた動機について

図表 6 委員を引き受けた動機（単数回答）

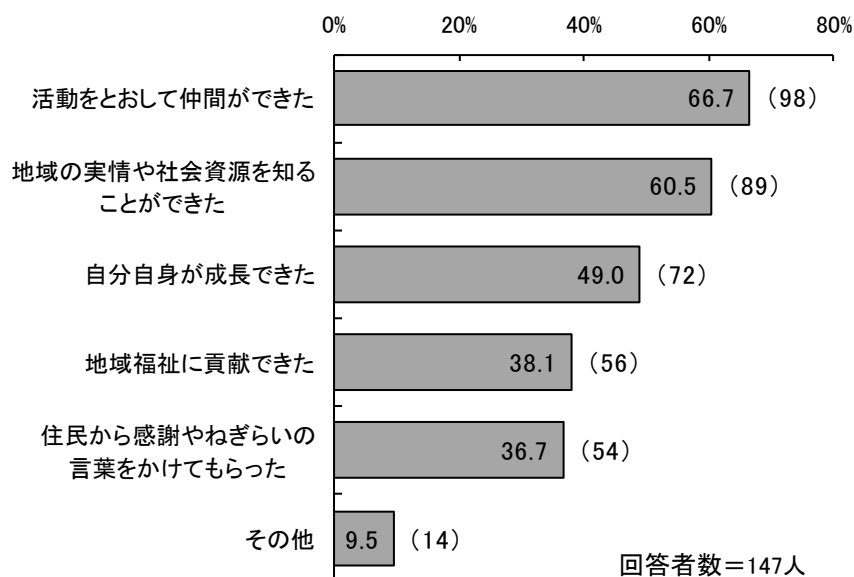


※（ ）内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

動機を年齢別で見ると、民生委員・児童委員の年代があがるにつれ「地域に貢献できると思ったから」の割合が減り、一方で委員の年齢が上がると「断り切れなかったから」の割合が増えるという結果であった。

4 委員としてのやりがいや支えについて

図表 7 やりがいや支えになっていること（複数回答）

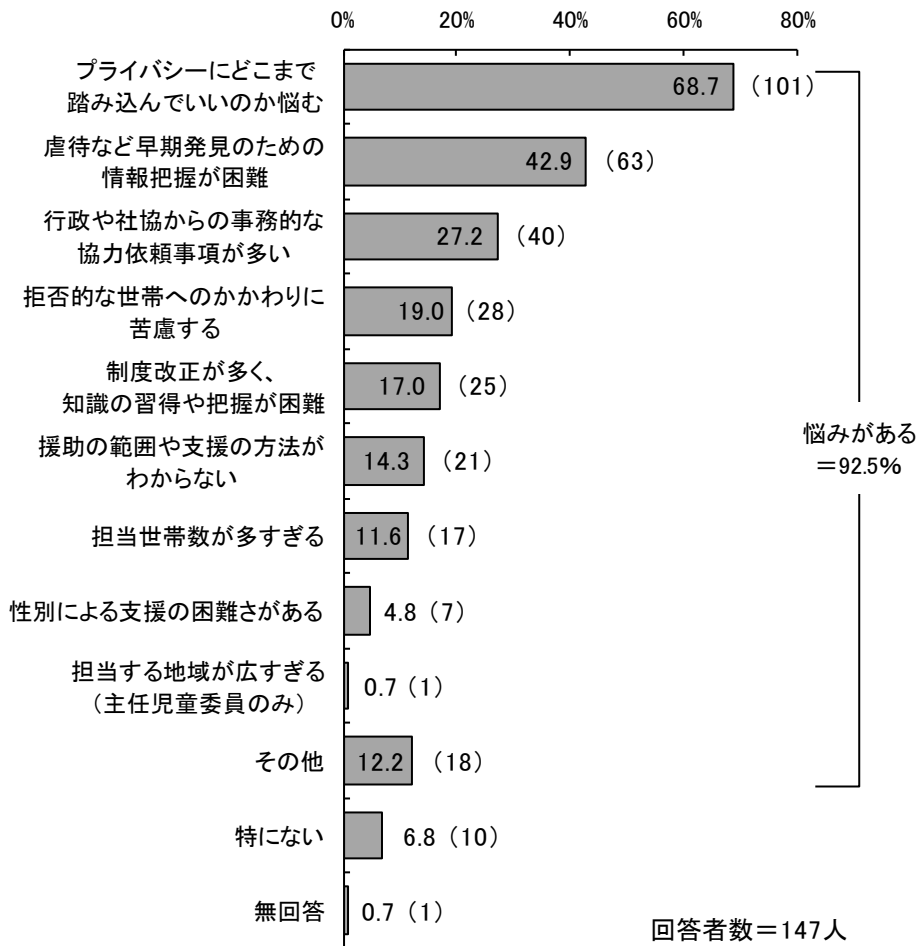


※（ ）内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

民生委員・児童委員の年代が上がるにつれ「活動をとおして仲間ができた」の割合が増え、在任期間が長くなるにしたがって同様の傾向であった。一方で、在任期間が長くなると「地域の実情や社会資源を知ることができた」の割合が減っている結果であった。

5 活動上の悩みや苦勞について

図表 8 活動上の悩みや苦勞（複数回答）

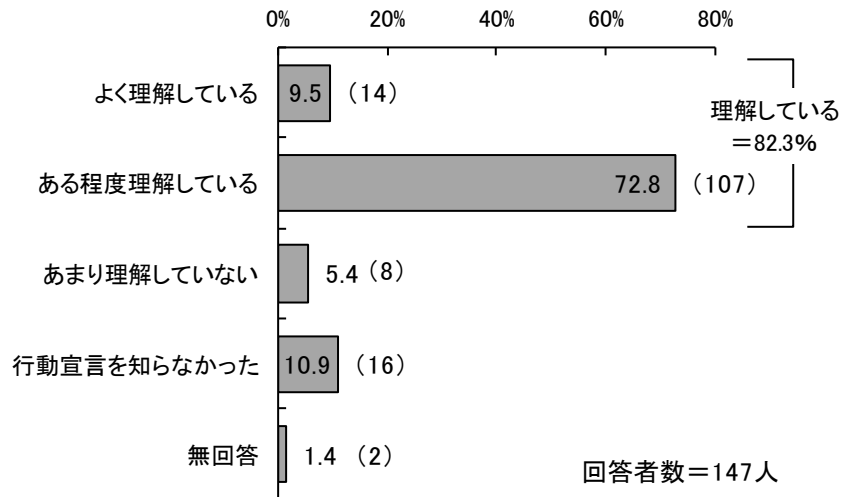


※ () 内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

在任期間、年齢に関係なく「プライバシーにどこまで踏み込んでいけばいいのかわからない」「拒否的な世帯へのかかわりに苦慮する」の回答が多くなっている。また、在任期間が長くなるにつれ「虐待などの早期発見のための情報把握が困難」の割合が増えている。「援助の範囲や支援の方法がわからない」という悩みは年齢が上がるにつれ割合は減り、在任期間が長くなるほど割合は減っている。

6 民生委員・児童委員行動宣言について

図表9 行動宣言の内容の理解度（単数回答）

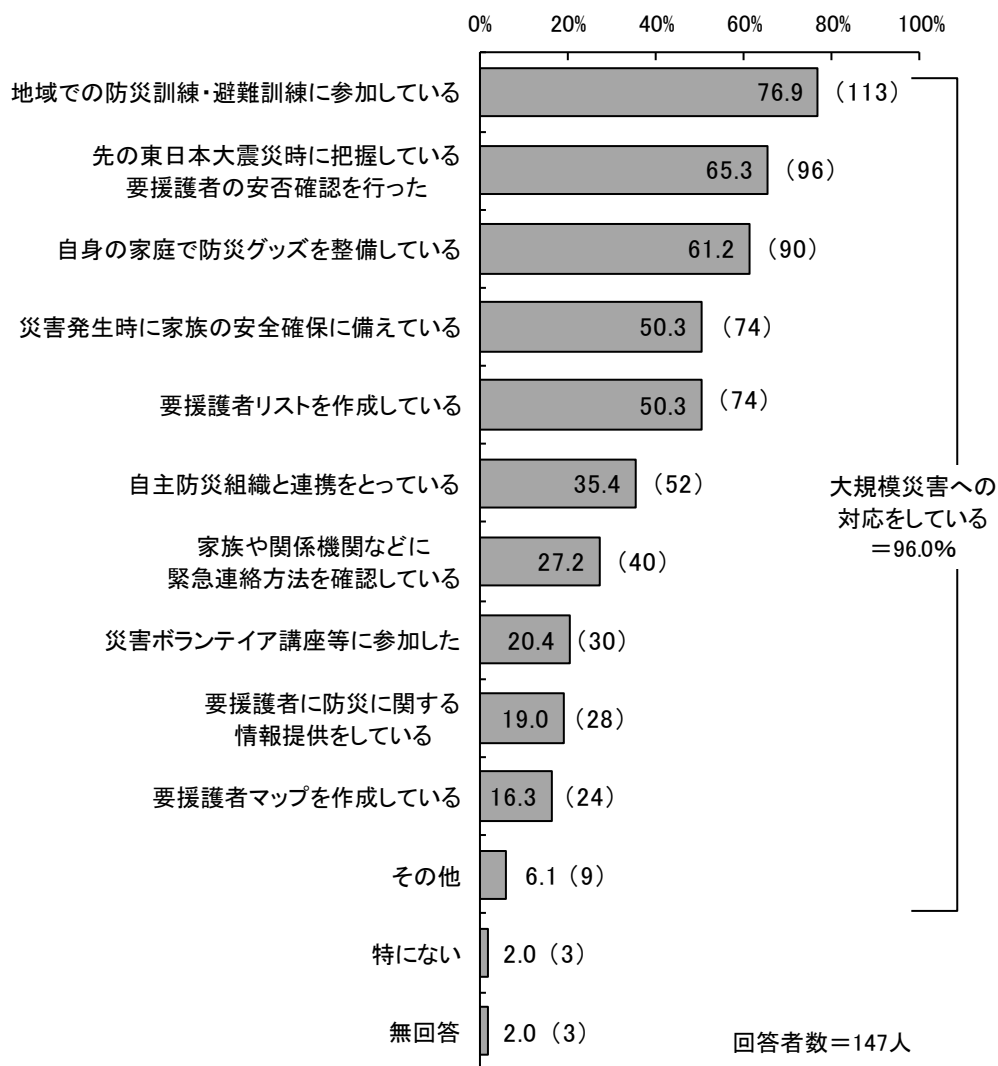


行動宣言の内容の理解については、「よく理解している」が9.5%、「ある程度理解している」が72.8%であり、これらを合わせて82.3%が理解している状況にある。

一方、「あまり理解していない」5.4%、「行動宣言を知らなかった」10.9%であり、理解していない・知らないという人が1割を超えている。

7 大規模災害への対応のために実施している活動内容について

図表 10 「大規模災害への対応」のために実施している活動内容（複数回答）



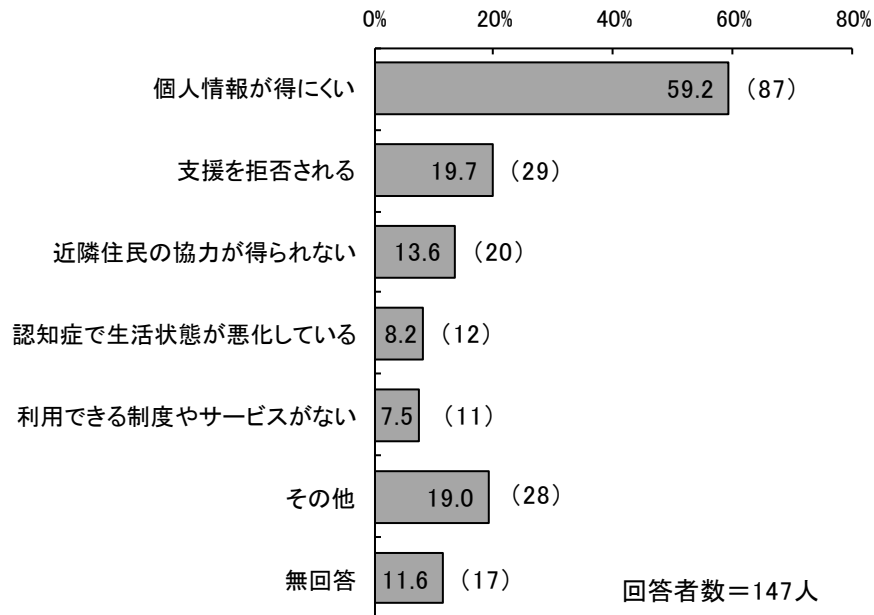
※ () 内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

災害時要援護者への安否確認、リスト作成、防災組織や関係機関との連携や確認、情報提供、マップ作成などのいわゆる「積極的側面（活動）」については、年代別が高く在任期間も長い民生委員・児童委員が高い割合で活動している結果となっている。

民生委員・児童委員として災害時要援護者の支援に必要な活動について、町会との連携、リストや名簿の活用、防災組織、地域関係機関との連携に関する意見が少なく、いうなれば直接的なアプローチに関する意見が多いことが特徴としてあげられる。

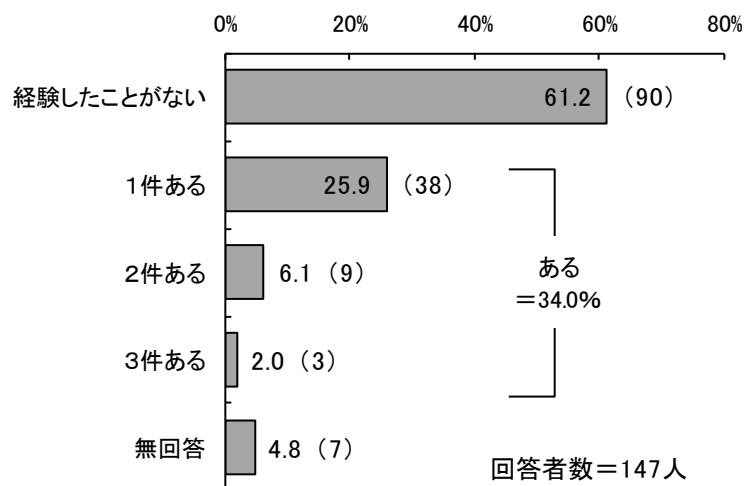
8 ひとり暮らし高齢者世帯への支援について困難に感じていることについて

図表 11 支援について困難に感じていること（複数回答）



※（ ）内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

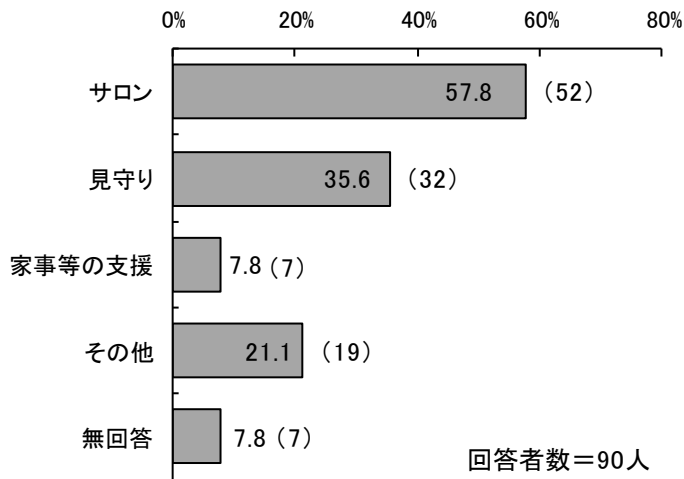
図表 12 担当区域内での孤独死の発生の経験（単数回答）



※（ ）内の数値は、その選択肢を選択している回答者数

9 小地域福祉活動を行うグループの有無

図表 13 活動の内容（複数回答）



担当区域内に小地域福祉活動があるかについては、「ある」が61.2%を占めている。担当地区別では、初台地区・本町地区・千駄ヶ谷地区において「ある」割合が高くなっている。

具体的な活動内容については、「サロン」が57.8%で最も高く、次いで「見守り」35.6%となっている。

10 対象者別の日常生活支援の実態について

(1) 支援している高齢者の件数及び具体的な内容

回答があった民生委員・児童委員が日常生活を支援している単身の高齢者は106人、単身以外の高齢者は28人、合計134人である。支援内容は多岐にわたっており、「その他」では「高齢者を支えている人を支える」「お話し相手、おかず提供」「声かけ」などである。

(2) 支援している障害者の件数及び具体的な内容

回答があった民生委員・児童委員が日常生活を支援している単身の障害者は8人、単身以外の障害者は6人、合計14人である。

支援内容の「その他」では「健康状態のチェック」「声かけ」などである。

(3) 支援している子育て家庭の件数及び具体的な内容

回答があった民生委員・児童委員が日常生活を支援している単親の子育て家庭は9家庭、単親以外の子育て家庭は6家庭、合計15家庭である。

支援内容は、「保育園への送迎」「事務手続き」「子育て支援センターへ行くことのお勧めと見守り」などである。

1.1 渋谷区社会福祉協議会に対するご要望・ご意見

渋谷区社会福祉協議会に対するご要望・ご意見に関する自由記載 52 件の内訳です。

図表 14 渋谷区社会福祉協議会に対するご要望・ご意見

